



「本当に たのしかった！」

北海道に気持ちの良い季節がやってきました。道外からいらした方は、朝晩の気温の低さにびっくりするかもしれません。日中は、厳しい暑さではありますが、この温度差が畑の作物やくだものを美味しくしてくれます。子どもたちは、幼稚園の池に植えたお米が育ち、そこに集まる虫たちに注目しています。また、幼稚園の畑やりんごの木、ブドウの育ち方からもたくさんの学びをしているところです。

暑さを楽しみながら、日々遊び込んでいる子どもたちですが、1 学期が終ろうとしています。「夏祭り」の計画や運営をし、相談して考えて準備したさまざまな遊びコーナーでの年長組の子どもたちの姿は、これまで保護者の皆様にご協力くださり、本当のお店屋さんを繰り返し経験したことで自信になっていることがわかります。目標に向かうため団結していく様子は、見ていてとても頼もしいものでした。

年中組では、長いことケーキ屋さんを楽しみました。本物みたいに絵の具に糊を加え搾り器具で本物の生クリームの感覚を楽しみました。食べる真似をすると、バニラエッセンスの香りがするのですから、学級まで見にきてくださった保護者の皆様も驚いたことでしょう。その後は、外にケーキさんを広げ、石鹸を泡だて、アワアワにしたビニールプールは、お菓子の水遊びへと変化していきました。泡のような虹色の笑顔が広がっていました。また、チラシで作った恐竜は、夏祭りの出し物にエントリーし、堂々と発表する様子に成長を感じました。

年少組は、とにかく外で遊びこみ、どんどん体力をつけていきました。体が一回り大きくなった子どもがたくさんいます。もう赤ちゃん体型ではありません。友だちと誘い合ってままごとや自転車、滑り台のうんていなどを繰り返し遊び込み、布のタープの中で焼肉ごっこが盛り上がっていました。

未就園児と満3歳の組は、身の回りの生活の準備を自分ですることが楽しくなりました。お母さんにしてもらわなくても大丈夫、私が時々手伝おうとすると、「自分でできる！」と言われてしまいます。自立していこうとする子どもの力、可能性は偉大なものだと思えます。

様々な活動が生まれましたが、すんなりと「楽しかった」わけではありません。「楽しかった」と言う日々の中に、成功や失敗、気まずさの経験したうえで、「楽しかった」があります。

こひつじ幼稚園の子どもは、成功するか失敗するかわからないけれど、チャレンジしてみる、やってみる、「そのことが楽しい」という考え方を選ぶ子が多いです。それは、幼稚園の空気が「できる」「できない」「できないは悪いこと」というの評価をしないことが大きいからだと思います。私たちは、やってみることに価値があると考えています。ですから子どもたちは、失敗を恐れず、チャレンジしたり、アイディアを積極的に発表したりします。

パンケーキの相談では、園庭に実ったイチゴが565個収穫でき、それをどのように食べるかと全園児で相談しました。年少組の子たちも、臆せず、手をあげ、提案していき、30以上のメニューから、パンケーキに決めました。思い通りのメニューではなかった子ども、納得して前に進めます。みんなで決めたのですから。ららちゃんがいちごジャムを作る様子にみんなが嬉しく楽しく応援し、パンケーキをみんなでいただくことは、喜びの分かち合いという経験になりました。

課題や目標に向かう時、「できたか」「できなかったか」と言う結果に注目するのではなく、そのために何をするかということに価値を見出したいものです。

生きてると、うまくいかないことや失敗、人を傷つけてしまった後悔、一步踏み出さなかったためにできなかったなど、心が乱される経験をします。それは、大人だけではなく幼児も同じです。

大人は、「これは誰の責任か」「誰がやったの」「なぜできない」「どうして失敗するのか」と結果を攻め立てるのではなく、「うまくいかない気持ち」「うまく表現できない心」を理解し、受け止め、考え方や気持ちを整理させながら、前へ向けるよう導くものでありたいものです。

先日、このようなことがありました。こひつじアイドルの子たちの衣装を私が手伝っていた時のことです。

アイドルは私に言われた通り上手にミシンをかけたのですが、間違ったところにミシンかけの指示をしてしまったことに気がつきました。

私は「ごめんね。間違えた。ここはどうしても間違えたくないところだったのに、私ったらバカだわ！だめだわ！本当にもうだめだ！」と呟き、自分に落ち込みながら糸を外していました。そのアイドルは私の顔と自分のドレスを覗き込んでから真剣に私の目を見て言いました。「先生は、バカじゃない、だめじゃないよ。だめな子なんかいない。みんなお花の心だよ。失敗したって、やり直したらいいじゃない。失敗は成功のもとだよ。そのことを思い出して。」と。そのアイドルの真剣な心からの励ましに、涙が出ました。私は、小さく「うん。そうだった。ありがとう、あなたは本物のアイドルよ」と、涙を見られないように答えたように思います。その後から、そのアイドルから私のことを聞いたのでしょうか、私が立ち直った頃、男の子が「大丈夫、大丈夫、さかえちゃん、失敗しても大丈夫」と言いに来てくれました。

私は、この歳まで長く人生を生きてきましたが、子どもたちに心に寄り添ってもらい、

励ましてもらいここに生きていることを改めて自覚し、私たちのあり方は間違っていないと思いました。アイドルたちはアイドルらしい堂々とした振る舞いに、踊り方に、ドレスに、みんなの目を釘付けにしました。私は、ドレス以上に心も素敵と思いました。子どもたちは、素敵に育っています。いろんなことがあって、「楽しかった」とつくづく思います。

保護者の皆様、今学期もこひつじ幼稚園の教育にご理解いただき。温かくお支えいただきましたこと、ありがとうございました。楽しい夏をお過ごしください。

卒園した子どもたちからお手紙をもらいます。かわいいお手紙とエピソードをご紹介します。

小学1年生になったれお君は、よくお手紙をくれます。特別お喋りな子ではありませんでしたが、様々な小さな変化に心の動く優しい子でした。学級では誰もが認める「だじゃれ王」でした。先日届いたその子からのお手紙です。



2日ほどして、たんぽぽ組の弟であるとうま君が、もじもじしながら私のところへやってきました。「先生、はい」と、一言。そして、急いで学級に行ってしまいました



お兄ちゃんが書いてくれたのでしよう。同じことをしたい弟の思いを組んだのでしょうか。れお君の優しい思いが感じられます。そして、弟の手紙には、大きく背の高い花が書き加えられていました。

けっしてアピールしたりしない、静かに優しいれお君です。学校で、頑張っています。